

## あとがき

2016年に出版した『リストラ中年奮戦記』は、私が50歳の誕生日1か月前にリストラでサラリーマンをクビになった後を描いたものでした。

27年半、音響メーカー・パイオニアの宣伝部でサラリーマンとして仕事をしてきた私が、突然リストラに遭い、植木屋という全く違う世界に入ってどう生きてきたか。さらに、植木屋を廃業して、里やまボランティアを中心に様々なボランティア三昧の日々。

そうした日々の中にも、ひたすらオタマジャクシやカエルを追いかけたり、オオスズメバチに刺されて死に損なったりと、私の生き方はちょっと普通の人とは違った、やさぐれた一面がある。

そう思って、私の人生を振り返ってみると、パイオニアにおけるサラリーマン時代を中心にず〜とやさぐれた人生ばかりではなかったのかと気が付いたのでした。

ということで、パイオニア時代を思い出しながらやさぐれた私の生き方を探ってみたものです。書いた多くの部分は、思い出ですが、実はこれは最近に思い出して書いたものではありません。もう70歳をとくに過ぎている今となっては、記憶力も衰え、昔のことを正確に思い出して書くななんてことはできないのが現実です。

今回この本に掲載した思い出のほとんどは20年ほど前に、「思いつくまま、思い出レポート」として書いたものです。20年ほど前とは、私が植木屋になり、仕事を始めて間もない頃です。ちゃんと仕事をやっていけるかどうか自信が持てず、どうしたらいいか悩んで、パイオニア時代の元の上司や仲間に毎日の仕事の様子をレポートにして送らせていただいていた。斎田造園にいた頃は酷い会社で、レポートすることもたくさんあったのですが、退社し、自営の庭師として仕事を始めた後は仕事もあまりなく、また、お客さんも、昔の仲間中心で悩むことも少なく、レポートに書くことはあまりなくなっていました。

その頃、ワープロに向かって、「さて、今日は何を書こうか」と思ったけれど、特に書かなければならないことが思い浮かばない時に、昔のパイオニア時代の思い出を中心にあれこれを書いたのが「思いつくまま、思い出レポート」でした。もちろん、そんなことで書いたものですから、誰に送るでもなく、ワープロのデータとしてそのまま眠ったままになっていたものです。

今回、『やさぐれ人生奮戦記』を出版するにあたって思い出し、あれこれ引っ張り出しました。20年ほど前とは私がまだ50歳代半ば前のことですから、記憶力もまだそんなに衰えていなかったことでしょう。ですから、それなりにちゃんとした思い出話として書くことができていると思います。

こんな私のやさぐれた人生経験がどれだけ人様の参考になるかは分かりません。しかし今の時代、働く者の権利は踏みにじられ、厳しい状況下に置かれています。そういうなかで、なんとかかんとか生き延びていくための参考になれば幸いです。

と考えながら、この本の出版に一所懸命取り組んでいた7月末に悲報が入ってきました。パイオニアの元宣伝部長・松井淳二さんが亡くなったというのです。

そもそも私の本のベースとなっているレポートはパイオニア時代の上司であった松井さん

や、親しくしていただいた仲間にも読んでもらおうと書き始めたものでした。慣れない植木屋の修行、一人親方としての仕事、そして様々なボランティア活動。私がこうしたことをすべて乗り越えてくることができ、そしてこのような本を出版できたのは、皆様にこのレポートを読み続けていただけたおかげだと信じています。皆様に感謝を申し上げるとともに、天国の松井さんにこの本を捧げます。

2019年10月 高木喜久雄